

— サ ム ラ ン グ だ よ り —

「去る5日に、二つの無法者 (OUTLAW) グループがサムラング近くで撃ち合いとなり、一方のリーダーが殺された。サムラングの住民はパニック状態となり、無線連絡を受けて駆けつけた時は、村を捨てて一時避難を決めていた。抗争は何とか収まり、住民もわれわれの説得で今は落ち着いた」とのファックスがCMBから届いたのは9月13日のことです。騒ぎは二日間だけで、子どもたちの青空学級も校舎建設も再開され、10月9日には予定通り竣工式ができそうだからHANDSの皆さんにもぜひ参加してほしいとの要請がありました。(その後竣工式は24日に変更)

今回の抗争に政治的背景はなさそうですから、まもなく治安は回復すると思います。校舎の竣工式は、すでに「通信」で紹介した現地滞在中の森田奈美さんが、ぜひ参加したいと申し出てくださっています。また、クリスマスの前に(12月13日頃から、または、20日頃から数日間)、サムラング訪問をという希望が会員からでていまして、現地に問い合わせ中です。

私たちの支援で KLAWIL GUTNGA(ライフセンター)が設立され、クリニックの医療活動を中心に実質的に活動を開始して丸1年がたちました。一度現地訪問をとお考えの方いらっしゃいましたら、この機会にいかがでしょうか。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

なお、以下に、私たちの定期送金(月額900ドル・約11万円)が、サムラングの KLAWIL GUTNGA (ライフセンター) を通じてどのように生かされているかについて、現地資料から報告させていただきます。

医療：

週1回、サムラングのクリニックで治療や指導にあたっているCMB専属の看護婦メリルは、通常はジェネラルサントスの「先住民事務所」にいて、サムラングだけでなく、救援を求めて山から下りてくるビラーン族の入院の手続き、医療相談にあたっています。以下は、2ヶ月遅れで9月に届いた彼女の詳細な報告のごく一部です。

(1997年7月分 サムラングのクリニック利用の患者数・・・41名)

症状・病気別患者数： 腹痛 5名、咳6名、けが 5名、インフルエンザ4名…その他12種の症状が報告されています。使用した薬15種。各錠数が記されています。

(1997年7月分の入院患者の報告より・・・CMBを通じてのHANDS 支援により町の病院で治療を受けたり入院したビラーン族は、以下の2例を含めて合計13人。このうち、サムラングの住民は9人)

A. ジェネラルサントス地区病院で卵管手術を受けたヴィルマの入院費は、マルンゴン町のソーシャルワーカーが負担し、医師への支払いはCMBが負担した。(一時的にジェネラルサントスの教会から借りた)

B. 階段から落ちて前頭部を骨折した女性の入院治療費は、家族とCMBが折半した。CMB負担額は472ペソ(約2,300円)。しかし、残念ながらこの女性は5日後に死亡した。

識字教育・保健衛生教育：